

越前市武生にゆく

JR 湖西線を通ったのは初めてだ。名古屋から金沢などに行く時は米原経由の北陸線だった。車窓から見える山並が美しかった。琵琶湖の広さを実感できた。敦賀から長い北陸トンネルを抜け、まもなく武生駅に着いた。駅には「だるまさん」と「ひろさんの絵」の看板がかかっていた。



武生を訪れたのは、この二つを見るためである。駅から商店街や古い街並みを歩き、中央公園まで行った。絵本作家・かこさとしさんの監修で整備



された広い公園であり、多くの親子連れが来ていた。「だるまちゃん広場」は子どもたちに大人気という。



公園から 5 分ほど歩き、お目当ての「越前市かこさとしふるさと絵本館」に着いた。温かみのある建物であり、当地出身のかこさんの絵本やインタビュー映像などをじっくり鑑賞した。



かこさんは絵本だけでなく、「人と地球の不思議」に限りない好奇心と夢でせまった。正月にでも『文藝別冊 かこさとし』を読んでみよう。

それから越前市武生公会堂記念館に行った。ここは武生の文化・行政の中心で、ランドマークであった。老朽化により取り壊しも検討されたが、市民の要望から建物を保存活用することになり、外観はそのままに大規模な改修工事が行われた。昭和初期の面影を残す建物として 2005 年、国の「登録有形文化財」に登録された。



ここで「生誕 100 年記念ピエソグラフによる いわさきちひろの歩み展」が開かれていた。武生はちひろさんの生誕の地。会場は広かったが見学する人も少なく、ちひろさんの絵をじっくりと堪能できた。ちひろさんの絵は、いつ見ても心が癒され、なんだか元気をもらえる。

武生のまちは大きな寺院も多く、城下町の雰囲気を感じさせた。あとから調べると、ここには越前府中城があった。明治維新以降に城の堀は埋められ、城跡は「大通り」として整地されている。まちは閑散としており、道を尋ねるのにも苦勞した。

(2018 年 12 月 23 日)